

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年12月15日

【評価実施概要】

事業所番号	1172502211
法人名	社会福祉法人 桑の実会
事業所名	康寿園グループホーム輝
所在地	359-1106 埼玉県所沢市東狭山ヶ丘6-2796-1 (電話) 04-2929-8811
評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成19年12月11日

【情報提供票より】(平成19年11月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年1月11日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤3人, 非常勤14人, 常勤換算	16.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての1階～2階部分
------	----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	59,160 円	その他の経費(月額)	22,680円 + 実費	
敷金	有(150,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,380円				

(4) 利用者の概要(11月23日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	5 名	要介護2	8 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	72 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉川病院、所沢中央病院、山口歯科、村田医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「輝」は、保育園をはじめ特別養護老人ホーム、ケアハウスなど多岐に渡る系列施設をもつ社会福祉法人「桑の実会」が運営主体である。“その人らしさを大切に”を運営理念に“いつまでも自分らしく輝いてほしい”という思いで、目と心はいつも利用者に向け、笑顔が絶えないよう、日々利用者の思いに添った介護を目指している。施設概念から脱却し、家庭に近いホームであるようにと利用者の好みや希望を聞きながら利用者との交流を作り、味噌作りや干し柿作りなどもしている。また、利用者の生活活性化にと四季折々に困んだ行事や地域のボランティア活動家を依頼しての趣味活動などを多く取り入れている。地域との連携にも力を入れ、小学校の登校見守り、堆肥作りに加わるなどの交流、災害時や防災への協力体制、地域支援隊の結成、連絡網作成、避難訓練への参加、協力などの取り組みがなされている。

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題を受け、職員全員が救急救命講習を受講している。また、運営推進会議で取り上げられたAEDを設置し、講習を実施している。行政や地域住民とは、運営推進会議、地域交流室の開放、小学校の登校見守りへの参加や、一緒に堆肥作りをするなどして交流を重ねている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>2ユニット合同の全体会議で評価の意義等について話し合った後、各ユニットで自己評価したものを一括して更に検討した。職員は反省や振り返り、新たな気づきがあり、有意義な機会になっている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>グループホーム、認知症、利用者のくらしの様子などについて説明し、地域活動への参加や小学校との交流、災害、防犯に向けての協力体制などについて話し合い、AEDの設置、地域支援隊の結成と避難訓練への参加などへの協力が得られた。行政からは、運営推進会議や避難訓練に参加してもらったり、毎月末には事故報告書を提出するなど行き来している。また、市の平和推進事業の「語り部の会」も利用している。</p>
重点項目	<p>家族への意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>行事と連動し、年2回家族会を開催している。1月は、2ユニット合同で新年会の後に、4月は花見の後に懇談の場を設け、意見や希望などを出してもらっている。他に面会時に話しをする時間を設けホームでの様子を伝えながら、意見や苦情、要望、不安なども聴取するようにしている。今年は旅行に連れて行ってほしいという要望があり、利用者9人と職員9人で一泊旅行及び日帰り旅行を行った。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム内にある地域交流室を自治会やボランティアの会合に開放し、情報を知らせてもらっている。小学校の登校見守りに参加し、地域住民と顔見知りになり声を掛け合ったり、小学校と堆肥作りをして交流を重ねている。地域住民にはホームの催し物の案内をし、参加してもらったり野菜を届けていただくこともある。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	パンフレットに理念の柱「その人らしく輝いて」が分かり易く明示されており、ホーム名「輝」はそこから命名されている。グループホームの基本方針である「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」に基づき、開設当初から日々の実践に取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、朝のミーティング、毎月のユニット会議、2ヶ月に1回の事例検討会議等で、折にふれ取り上げ共有している。また、地域に出かけて行ったり、地域の人を受け入れる中で実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームにある地域交流室を自治会やボランティア会合に開放し、情報を知らせてもらっている。小学校の登校見守りに参加し、地域住民と顔見知りになり声を掛け合うようになった。また、ホームの催し物の案内をし、参加してもらったり野菜を届けていただくこともある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全体会で評価の意義等について説明した後、各ユニットで自己評価したものを一括して、改めて検討した。職員には反省、振り返り、気づきの良い機会になっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は昨年より数回開催しており、話し合いのなかで認知症の人に対する理解を深めてもらったり、協力をお願いしたりした。災害時の支援、協力のために地域支援隊が結成され、防災訓練にも参加してもらった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月末には事故報告書を届けたり、運営推進会議や避難訓練に参加してもらうなど、市担当者との連携を綿密に取り、現状を知ってもらう機会をつくっている。また、市の平和推進事業の「語り部の会」を活用し、地域の人達にも呼びかけ、参加してもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月利用料明細請求書と一緒に、「輝だより」とホームでの生活の様子についての担当者自筆の便りを、写真入りで個別に届けている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事と連動し、年2回家族会を開催している。1月は2ユニット合同で新年会の後に、4月は各ユニット毎にお花見の後に懇談の場を設け、意見や希望などを出してもらっている。旅行に連れて行ってもらいたいという要望があり、一泊旅行や日帰り旅行を実施した。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	できる限り職員の異動は避けているが、年一人くらいの異動がある。そのときは利用者に事情を話し、挨拶をきちんとし、理解してもらっている。開設以来3人の離職者があったが、時々ホームに顔を見せに遊びに来てくれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部共に研修の機会を多く持っている。毎月定例のユニット会議は、開催日が決めてあり、全員参加を原則とし、都合の悪い人が出た時は、可能な限り日を変更して実施し、情報共有の場としている。外部研修は一人年1回は受講し、報告書を提出して、ユニット会議で報告している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西部地域の管理者間での情報交換や開設前に見学させてもらったグループホームとは必要に応じて交流しているが、定着した交流のための取り組みはしていない。		所沢市のネットワーク作りを望んでいるとのことなので、ぜひ日々のサービスや職員の育成に役立つような交流や連携を目指した取り組みを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人納得の上で入居開始したケースが殆どだが、そうではないケースについては病気治療のための入院、家族が長期出張のためなどと理由付けをし、しばらく面会を避けていただくなどして、利用者の様子を観察し、対応を工夫しながら馴染んでもらっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>本人の思いに添うように働きかけるよう心がけている。利用者は職員からの働きかけには応じてくれるが、自らの言動、行動がやや少ない。大半が女性なので、食事関係の場面で一緒に調理したり、教えてもらったりすることが多い。正月には、利用者職員全員で晴れ着を着て、臼、杵を使って餅つきをしたり初釜を楽しんでいる。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日勤帯の職員が主体となって、利用者とはゆったり関わることになっている。利用者の生活歴を踏まえて、話題を取り上げ、言葉や表情などから思いや希望を把握するよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>初回の介護計画は、入居後生活に馴染んだ頃に家族が書かれた生活歴や、本人からの聞き取り調査を大事にししながら、アセスメントシート、フェイスシート、24時間シートなどを照らし合わせて、作成している。全職員の生活行動観察を基に、やりたいこと、できることを掘り下げた介護計画になるよう努めている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月のユニット会議で担当者を中心に、個々人の評価をし、できている点は削除し、問題となっている点を付け加えて新たな計画を作成している。なお、定期的な見直しは日々の記録を基に6ヶ月に1回実施している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望があれば、受診先までの送迎、通院支援をしている。災害時には、地域住民の一時避難場所として提供することになっている。開設3年経過後には、近隣の高齢者から要望があればショートステイ利用を受け入れる予定である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医受診は原則として家族に依頼しているが、必要に応じ医療機関までの送迎を支援し、協力医から定期的に訪問診療をしてもらっている。内科医以外または依頼があった受診は送迎や付き添いの支援をし、受診報告書(受診までの経緯、受診内容、結果、ホームでの対応等記載)を作成している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向に沿った支援を行えるよう、利用者、家族、医療機関等を話し合い、関係者間で重度化や終末期に向けた方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室に入る時はロックをする。個人を尊重した言葉遣いや言葉かけを徹底するなど気をつけている。また、トイレの扉は車椅子利用の人には、やや動きにくい作りのため、使用中は目隠しカーテンで対応している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れの中に、その場その場で一人ひとりのペースに合わせた支援に努めている。調査当日は、ボランティアによる書道活動の実施日であったが、参加を希望されない人の気持ちを尊重し、職員は笑顔で了承していた。担当者のアイデアと工夫で、入居時からの様子を個々のアルバムにまとめている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月の献立作成には、利用者にも加わってもらい希望や好みものを聞き、取り入れるようにしている。また、月1回の外食や行事食などは大変喜ばれている。食事は、職員も一緒に各テーブルで談話しながら摂取している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	各ユニットで週5日または隔日入浴を原則としている。しかし、拒否されたり気分が乗らず入浴できなかったときは、翌日に入浴したり時間をずらすなど柔軟に対応している。入居当初から、利用者の今までの習慣や希望に合わせて夕食後や就寝前の入浴も支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除は、居室は各自で、共有部分は手すり、廊下、床など個々の能力に応じ分担のようなものができおり、手分けして行っている。ボランティアや職員のリードで書道、絵手紙、茶道、手芸やふれあいワンちゃん団体からのアニマルセラピーを取り入れるなど、楽しんでもらえそうなプログラムを用意し参加を促している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	晴天の日は、殆ど散歩に出かける。食材の買出しや個人の買い物に出かけたり、外食、地域のイベント等に参加している。今年は家族からの要望もあり、1泊旅行や日帰り旅行に利用者9名と職員9名全員で出かけた。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則は鍵をかけないケアに取り組んでいる。しかし、防犯上必要に応じ施錠することはある。居室に関しては夜間、内側から施錠される利用者が多いが、いざというときには、外側から職員が開けられるようになっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議で災害対策について取り上げ、周辺自治会で地域支援隊を結成し、その連絡網を作成した。避難訓練に協力してもらうなどの取り組みをしている。また、グループホームとしては3日分の食材を備蓄している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や摂取量や栄養バランスは、系列施設の管理栄養士が作成した献立表を参考にしており、摂取状況は、チェック表に記載している。水分は朝、昼、夕食時と10時、15時の5回の他必要に応じ提供している。また、摂取量が少ない人には起き抜けにコーヒーなどを提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、トイレ、リビングダイニングなど共用空間は広く、ゆったりしている。日中過ごすことが多いリビングダイニングは、一人ひとりの居場所作りの工夫や行事会場としての活用に役立っている。季節や行事に因んだ手作りの装飾や日めくりカレンダーが貼られたり、壁掛け時計は目線の高さを考慮して設置するなど居心地の良さの工夫が見られた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や自分の作品が飾られていたり、自宅から持ち込まれたテレビ、タンス、リクライニングチェアなどが置かれていて、それぞれに温かみと個性が伺えた。		